

## 小笠原諸島の鳥類目録

樋口行雄<sup>1</sup>

### はじめに

小笠原諸島は、日本列島より約1000km以上離れた太平洋上に点在する島嶼群であって、大洋島として多くの固有種、固有亜種を有し、生物地理学上注目すべき地域であるとともに、多様で貴重な自然生態系のみられる地域であることはすでによく知られている。

小笠原諸島の鳥類相については、これまでのいくつかの調査により、そのあらまは明らかになっており、それらをまとめたものには榎山 (1930)、蓮尾 (1970 b) がある。しかし、500 km以上の範囲に広がり、地形・植生的にも変化に富む諸島内での分布については、必ずしも十分に判明しているとはいえない。また蓮尾 (1970 a) 以後にもいくつかの調査があり、新しい知見も得られている。それらをまとめて、諸島内における分布を正確に把握しておくことは、生物地理学上からも重要な基礎作業と考えられる。

一方、本諸島の環境はここ100年程の間に、人の移住やそれに伴う森林の伐採、開墾、住民の離島、米国の統治と日本への復帰、その後の開発などによって大きく変動しており、鳥類相にも様々な変化が認められる。したがって、常にこの諸島の鳥類相とその変化を把握しておく必要がある。

この目録は、南鳥島、硫黄列島 (火山列島) を含む小笠原諸島全域から記録された鳥類をまとめたものである。ここには従来発表された諸論文・諸報告において報告された15目41科184種を収録した。記録は出典を示すにとどめ、詳しい生息状況の変化などについては、いずれ機会を改めて検討したいと考えている。

この目録をまとめるにあたっては、花輪伸一氏、松田道生氏、武田宗也氏、山階鳥類研究所資料室の方々に大変お世話になった。深く感謝したい。

### 目録の記載要領

1. この目録の分類と配列は、日本鳥学会 (1974) のCheck-list of Japanese Birds, Fifth and Rev. Ed.および補遺にしたがった。
2. 種を基準としたが、必要と思われるものには亜種名を加えた。
3. 分布の記載はおおむね北から南の島の順とし、原記載で島嶼名が明らかにされていないものはそのまま諸島名、列島名を記した。
4. 収録した島嶼は次のとおりである。髯島列島：北之島、髯島、針之岩、媒島。父島列島：孫島、弟島、兄島、父島、南島、西島、東島、巽島。母島列島：母島、向島、鰐島島、中鰐島島、小鰐島島、丸島、二子島、平島、姉島、妹島、姪島。硫黄 (火山) 列島：北硫黄島、硫黄島、南硫黄島、西之島、南鳥島 (マーカス島)
5. 繁殖の記録が報告されている場合には (B) と記した。ただし、この記録の中には報告者自身による確認かどうか不明のものも含まれている。
6. 生息状況が大きく変化したなど、必要と思われる場合には戦前と戦後の記録を分けた。
7. 記録は可能な限り原典を参照し、転載とみられるものは採用しなかった。

1984年11月10日受理

1. 〒510 三重県四日市市常磐4-3-23

## PODICIPEDIFORMES カイツブリ目

## PODICIPEDIDAE カイツブリ科

*Podiceps ruficollis* カイツブリ：父島 (山階 1941).

*Podiceps nigricollis* ハジロカイツブリ：父島 (山階 1941).

## PROCELLARIIFORMES ミズナギドリ目

## DIOMEDEIDAE アホウドリ科

*Diomedea albatrus* アホウドリ：小笠原諸島 (Seeböhm 1890), 北之島 (B)・髯島・妹島附近・西之島 (B)・硫黄島 (榎山 1930). かつて本諸島でも繁殖していたが, 山階 (1930) 以後記録はまったくない.

*Diomedea immutabilis* コアホウドリ：髯島 (B) (倉田 1978), 髯島列島沖 (Hasegawa 1978), 南硫黄島 (塚本 1982), 南鳥島 (Bryan 1903) 戦前の記録はほとんどなく, 1977年 髯島属島の鳥島で繁殖が発見され, 以後毎年繁殖している.

*Diomedea nigripes* クロアシアホウドリ：戦前—北之島 (B)・髯島 (B)・針之岩 (B)・媒島 (B)・嫁島 (B) (榎山 1930, 山階 1930, 1932), 父島・母島間の海上・母島 (B)・鰐島島・姉島 (B)・西之島 (B)・北硫黄島・硫黄島・南硫黄島 (B) (黒田 1912, 榎山 1930), 南鳥島 (Bryan 1903). 戦後—北之島 (日本野鳥の会 1975), 髯島附近 (高野他 1970), 髯島 (B)・媒島 (B)・嫁島 (B) (倉田 1978), 南硫黄島 (塚本 1982), 小笠原近海 (黒田 1954, Hasegawa 1978). かつては諸島各地で繁殖していたが, 戦後は髯島, 媒島, 嫁島で繁殖が確認されているにすぎない.

## PROCELLARIIDAE ミズナギドリ科

*Pterodroma hypoleuca* シロハラミズドリ：戦前—髯島附近・髯島 (B) (榎山 1930), 媒島 (B) (Seeböhm 1890), 父島・父島沖 (山階 1930), 鰐島島 (B)・妹島附近・北硫黄島 (B)・南硫黄島 (B) (榎山 1930), 硫黄島 (黒田 1912), 南鳥島 (日本鳥学会 1942, 黒田 1954) 戦後—北之島・中之島・針之岩附近 (日本野鳥の会 1975), 硫黄島 (蓮尾 1970), 南硫黄島 (塚本 1982), 小笠原近海 (蓮尾 1970 a, 高野他 1970, Hasegawa 1978, 樋口他 1980, 1984).

*Bulweria bulwerii* アナドリ：戦前—東島・巽島 (B) (山階 1932), 西之島 (B)・北硫黄島 (B) (榎山 1930), 硫黄島 (B) (Seeböhm 1890, 黒田 1912, 榎山 1930), 南鳥島 (日本鳥学会 1932). 戦後—南鳥島 (B) (日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980, 1984), 南硫黄島 (B) (塚本 1982), 小笠原近海 (蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980, 1984).

*Calonectris leucomelas* オオミズナギドリ：髯島 (Mathews & Iredale 1915). Mathews & Iredale (1915) には, 「An example marked "Muko Is., of Bonin Group, 5/11/1911, *Puffinus leucomelas* (Temm.)," is a young in down.」という記載がみられるが, 他にはまったく記録がなく, もちろん繁殖の証拠はない.

*Puffinus pacificus* オナガミズナギドリ：北之島 (B) (榎山 1930), 髯島 (B) (榎山 1930, 山階 1930), 媒島 (B)・嫁島 (B)・孫島 (B)・弟島 (B)・兄島 (B)・西島 (B)・東島 (B) (榎山 1930), 巽島 (山階 1932), 南鳥島 (B) (榎山 1930, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980, 1984), 父島 (長谷川 1977, 樋口他 1980), 母島 (日本野鳥の会 1975), 妹島 (B)・姪島 (B)・鰐島島 (B)・丸島 (B)・二子島 (B)・平島 (B)・姉島 (B)・向島 (B)・西之島 (B)・北硫黄島 (B) (榎山 1930), 硫黄島 (B) (黒田 1912, 榎山 1930), 南硫黄島 (B) (榎山 1930, 塚本 1982), 南鳥島 (Bryan 1903), 小笠原近海 (蓮尾 1969, 日本野鳥の会 1975,

Hasegawa 1978, 樋口他 1980, 1984).

*Puffinus tenuirostris* ハシボソミズナギドリ：小笠原諸島 (Hartert 1920), 硫黄島 (Mathew & Iredale 1915), 小笠原海域 (黒田 1954).

*Puffinus nativitatis* コミズナギドリ：小笠原諸島 (黒田 1912), 南鳥島 (Bryan 1903, Kuroda 1954), 小笠原海域 (Kuroda 1954).

*Puffinus lherminieri* セグロミズナギドリ：南鳥 (死体拾得) (樋口他 1980), 北硫黄島 (B) (榎山 1930), 髯島列島沖 (日本野鳥の会 1975), 小笠原近海 (高野他 1970).

#### HYDROBATIDAE ウミツバメ科

*Oceandroma furcata* ハイイロウミツバメ：硫黄島 (榎山 1930), 南鳥島 (日本鳥学会 1932).

*Oceandroma leucorhoa* コシジロウミツバメ：父島沖 (山階 1932).

*Oceandroma tristrami* オーストンウミツバメ：父島附近 (榎山 1930, 山階 1932), 北硫黄島 (B) (榎山 1930), 小笠原近海 (高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, Hasegawa 1978).

*Oceandroma matsudairae* クロウミツバメ：西之島附近・姉島沖 (榎山 1930), 北之岩沖・中の島沖・針之岩沖・母島沖・向島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (B) (榎山 1930), 南硫黄島 (B) (塚本 1982), 小笠原近海 (蓮尾 1970 a, 高野他 1970, 塚本 1982).

#### PELECANIFORMES ペリカン目

##### PHAETHONTIDAE ネットイチョウ科

*Phaethon rubricauda* アカオネットイチョウ：小笠原諸島 (Seebohm 1890, 小川 1905), 母島 (日本野鳥の会 1975), 母島沖 (蓮尾 1970), 北硫黄島 (B) (榎山 1930), 北硫黄島附近 (蓮尾 1970), 硫黄島 (吉原 1901), 南硫黄島 (B) (榎山 1930, 塚本 1982), 南鳥島 (B) (吉原 1901, Bryan 1903, Kuroda 1954), 硫黄列島附近 (高野他 1970). 南硫黄島は我国最大の繁殖地であり, 1982年で200羽以上の生息が推定されている。

*Phaethon lepturus* シラオネットイチョウ：小笠原諸島 (小川 1905), 嫁島附近 (榎山 1930), 嫁島沖 (山階 1930), 硫黄列島 (黒田 1912), 南鳥島 (日本鳥学会 1922).

##### SULIDAE カツオドリ科

*Sula leucogaster* カツオドリ：戦前—父島列島・南鳥 (Seebohm 1890), 髯島 (B)・弟島 (B)・兄島 (B)・南鳥 (B)・母島 (B)・鏗島島 (B)・姉島 (B)・姪島 (B)・平島・西之島 (B)・北硫黄島 (B)・南硫黄島 (B) (榎山 1930, 黒田 1937), 硫黄島 (Seebohm 1890, 黒田 1912, 榎山 1930), 父島沖・向島沖 (山階 1932), 南鳥島 (Bryan 1903, 山下 1903). 戦後—北之島 (B)・中の島 (B)・針之岩 (B)・媒島 (B)・弟島・兄島 (日本野鳥の会 1975), 髯島 (高野他 1970), 父島 (中根他 1980), 父島周辺 (蓮尾 1970, 長谷川 1977, 樋口他 1980, 中根他 1980), 南鳥 (B) (日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980, 1984), 母島周囲の小島 (蓮尾 1970, 高野他 1970), 母島 (B)・鏗島島 (B)・中鏗島島 (B)・向島・平島 (高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 姉島 (B)・姪島 (B) (高野他 1970, 日本野鳥の会 1975), 姪島の四本岩・妹島・妹島の鳥島 (高野他 1970), 南硫黄島 (B) (塚本 1982), 小笠原周辺海域 (五月女 1968, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, Hasegawa 1978, 樋口他 1980, 1984).

*Sula dactylatra* アオツラカツオドリ：父島・母島間海上 (五月女 1968), 南鳥島 (Bryan 1903).

*Sula sula* アカアシカツオドリ：西之島 (榎山 1930), 南硫黄島附近 (塚本 1982), 南鳥島 (Bryan 1903), 小笠原海域 (樋口他 1983).

##### PHALACROCORACIDAE ウ科

*Phalacrocorax carbo* カワウ：髯島 (山階 1932).

*Phalacrocorax filamentosus* ウミウ：母島・平島附近（靱山 1930），向島（日本野鳥の会 1975）。

#### FREGATIDAE グンカンドリ科

*Fregata minor* オオグンカンドリ：小笠原諸島（山階 1941），父島・母島・北硫黄島（靱山 1930），南硫黄島（黒田 1912），南鳥島（Bryan 1903）。南硫黄島の記録については、靱山（1930）はおそらく北硫黄島の誤りではないかと述べている。

*Fregata ariel* コグンカンドリ：南硫黄島（塚本 1982）。なお、中根他（1980）は母島でグンカンドリsp.を観察している。

#### CICONIIFORMES コウノトリ目

##### ARDEIDAE サギ科

*Ixobrychus sinensis* ヨシゴイ：髯島（靱山 1930），父島（靱山 1932，山階 1932），母島・北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）。

*Ixobrychus eurhythmus* オオヨシゴイ：小笠原諸島・父島（山階 1941），北硫黄島（靱山 1932）。

*Ixobrychus cinnamomeus* リュウキュウヨシゴイ：北硫黄島・南鳥島（日本鳥学会 1958）。

*Gorsakius goisagi* ミゾゴイ：北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）。

*Nycticorax nycticorax* ゴイサギ：弟島（靱山 1930），父島（靱山 1930，山階 1932），母島（中根他 1980），北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）。また、樋口他（1980）も本種と思われる鳥を母島で記録している。

*Nycticorax caledonicus* (*N.c. crassirostris*) ハシブトゴイ：小笠原諸島（Kittlitz 1833），媒島（Seeböhm 1890）。絶滅。1889年の記録が最後である。

*Butorides striatus* ササゴイ：小笠原諸島（Hartert 1920），父島（山階 1932，長谷川 1977），母島（長谷川 1977），北硫黄島（靱山 1930）。

*Ardeola bacchus* アカガシラサギ：北硫黄島（日本鳥学会 1958）。

*Bubulcus ibis* アマサギ：父島（靱山 1930，長谷川 1977，中根他 1980），母島（中根他 1980），北硫黄島（靱山 1930）。

*Egretta alba* タイサギ—*E.a. alba*：小笠原諸島（日本鳥学会 1974）。*E.a. modesta*：母島（高野他 1970），硫黄列島（日本鳥学会 1974）。

*Egretta intermedia* チュウサギ：父島（山階 1932，長谷川 1977），母島（日本野鳥の会 1975），妹島・硫黄島（靱山 1930）。

*Egretta garzetta* コサギ：父島（山階 1932，長谷川 1977），母島（靱山 1930，中根他 1980），北硫黄島（靱山 1930）。

*Ardea cinerea* アオサギ：父島（靱山 1930，山階 1932，長谷川 1977），母島・北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）。

*Ardea purpurea* ムラサキサギ：北硫黄島（靱山 1930）。南鳥島でも1952年に本種らしい観察例がある（黒田 1954）。

##### THRESKIORNITHIDAE トキ科

*Threskiornis melanocephalus* クロトキ：父島（長谷川 1977）。

#### ANSERIFORMES ガンカモ目

##### ANATIDAE ガンカモ科

*Anser albifrons* (*A.a. frontalis*) マガン：北硫黄島（靱山 1930）。

*Anser fabalis* ヒシクイ *A.f. serrirostris*：髯島，父島（山階 1941）。*A.f. curtus*：髯島（日

本鳥学会 1974).

*Cygnus cygnus* オオハクチョウ: 父島 (靱山 1930).

*C. columbianus* (*C.c. jankowskii*) コハクチョウ: 北硫黄島 (靱山 1930).

*Aix galericulata* オシドリ: 母島 (千羽 1977).

*Anas platyrhynchos* マガモ: 父島 (靱山 1930, 山階 1932, 長谷川 1977), 弟島 (日本野鳥の会 1975), 母島 (靱山 1930, 日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (靱山 1930).

*Anas poecilorhyncha* カルガモ: 母島 (千羽 1977, 中根他 1980).

*Anas crecca* (*A.c. crecca*) コガモ: 髯島 (蓮尾 1969), 父島 (靱山 1930, 山階 1932, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977), 南島 (長谷川 1977), 母島 (靱山 1930, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977, 中根他 1980).

*Anas formosa* トモエガモ: 父島 (靱山 1930).

*Anas falcata* ヨシガモ: 南島 (蓮尾 1969).

*Anas penelope* ヒドリガモ: 父島 (山階 1941, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 中根他 1980), 母島 (日本野鳥の会 1975), 硫黄島 (靱山 1930).

*Anas acuta* オナガガモ: 父島 (長谷川 1977), 母島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (日本鳥学会 1974).

*Anas querquedula* シマアジ: 父島 (日本野鳥の会 1975).

*Aythya fuligula* キンクロハジロ: 父島 (山階 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977), 母島 (靱山 1932, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977), 硫黄島 (日本鳥学会 1974).

*Aythya marila* スズガモ: 父島 (山階 1932).

*Mergus serrator* ウミアイサ: 父島 (山階 1932).

## FALCONIFORMES ワシタカ目

### ACCIPITRIDAE ワシタカ科

*Pandion haliaetus* ミサゴ: 父島 (靱山 1930, 山階 1932), 北硫黄島 (靱山 1930).

*Haliaeetus albicilla* オジロワシ: 弟島 (Seebohm 1890), 母島 (靱山 1930), 父島 (日本野鳥の会 1974).

*Accipiter gentilis* オオタカ: 母島・西之島とスミス島間海上 (靱山 1930).

*Accipiter gularis* ツミ: 父島・北硫黄島 (靱山 1930), 母島 (日本野鳥の会 1975).

*Buteo buteo* (*B.b. toyoshimai*) ノスリ: 戦前一父島列島 (Seebohm 1890), 父島・母島 (靱山 1930, 山階 1932), 妹島・姪島 (靱山 1930). 戦後一父島 (蓮尾 1970a, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 弟島 (蓮尾 1970), 兄島 (日本野鳥の会 1975), 南島 (長谷川 1977), 母島 (蓮尾 1970a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977, 長谷川 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 姪島 (高野他 1970), 平島 (樋口他 1980). 父島列島, 母島列島で記録されているが, 髯島列島, 硫黄列島ではまったく記録がない.

*Butastur indicus* サシバ: 北硫黄島 (日本鳥学会 1958).

*Circus cyaneus* ハイイロチュウヒ: 父島 (日本野鳥の会 1975).

*Circus aeruginosus* チュウヒ: 父島 (長谷川 1977), 北硫黄島 (靱山 1930)

*Falco peregrinus* ハヤブサ—*F.p. fruitii*: 硫黄島 (Seebohm 1891), 北硫黄島 (靱山 1927).

*F.p. japonensis*: 髯島 (山階 1930), 父島・北硫黄島 (靱山 1930).

*Falco tinnunculus* チョウゲンボウ: 硫黄島 (靱山 1930).

## GALLIFORMES キジ目

## PHASIANIDAE キジ科

*Bambusicola thoracica* コジュケイ：硫黄島（蓮尾 1970 a, 高野他 1970）、戦後の人為的な移入による。

*Phasianus colchicus* キジ：硫黄島（蓮尾 1970 a）、戦後の人為的な移入による。

## GRUIFORMES ツル目

## RALLIDAE クイナ科

*Porzana pusilla* ヒメクイナ：北硫黄島（靱山 1930）。

*Poliolimnas cinereus* (*P.c. brevipes*) マミシロクイナ：硫黄島（Seeböhm 1891, 内田 1911, Ingram 1912, 靱山 1930）。内田（1911）は南硫黄島として報告したが、これは硫黄島の誤りである（靱山 1930）。靱山の記録は観察のみであり、以後記録がまったくなく、日本鳥学会（1942）は1911年で絶滅したとしている。硫黄島、南硫黄島で繁殖との記載がある（日本鳥学会 1942, 1974）が、この根拠となる記録は不明である。

*Gallinula chloropus* バン：父島（靱山 1930）、母島（山階 1932）。

*Gallicrex cinerea* ツルクイナ：北硫黄島（日本鳥学会 1942）。

*Fulica atra* オオバン：母島（千羽 1977, 長谷川 1977）。

## CHARADRIIFORMES チドリ目

## HAEMATOPODIDAE ミヤコドリ科

*Haematopus ostralegus* ミヤコドリ：小笠原列島・硫黄列島（日本鳥学会 1974）。

## CHARADRIIDAE チドリ科

*Charadrius hiaticula* ハジロコチドリ：北硫黄島（靱山 1932）。

*Charadrius dubius* コチドリ：硫黄島（蓮尾 1970）、西之島（靱山 1930）。

*Charadrius placidus* イカルチドリ：母島（靱山 1930）。

*Charadrius alexandrinus* シロチドリ：西之島（靱山 1930）、父島（蓮尾 1969, 長谷川 1977, 中根他 1980）。

*Charadrius mongolus* メダイチドリ：北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）。

*Pluvialis dominica* ムナグロ：小笠原諸島（Cassin 1862, Seeböhm 1890）、髯島（靱山 1930, 山階 1930, 1932, 高野他 1970）、媒島（日本野鳥の会 1975）、嫁島（山階 1932）、父島・母島（靱山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984）、平島（日本野鳥の会 1975）、姪島・北硫黄島・硫黄島（靱山 1930）、南鳥島（Bryan 1903）。

*Pluvialis squatarola* ダイゼン：父島（山階 1932, 樋口他 1984）。

*Vanellus vanellus* タゲリ：父島（山階 1941）。

## SCOLOPACIDAE シギ科

*Arenaria interpres* キョウジョシギ：髯島（靱山 1930, 山階 1930, 1932, 蓮尾 1969）、弟島（日本野鳥の会 1975）、父島・母島（靱山 1930, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984）、平島・北硫黄島（靱山 1930）、硫黄島（靱山 1930, 蓮尾 1970 a, 高野他 1970）、南鳥島（Bryan 1903, Kuroda 1954）。

*Calidris ruficollis* トウネン：南鳥島（樋口他 1980）、硫黄島（靱山 1930）。

*Calidris minutilla* ヒバリシギ：母島（中根他 1980）、北硫黄島（日本鳥学会 1974）。

*Calidris acuminata* ウズラシギ：父島（日本野鳥の会 1975）、北硫黄島（靱山 1930）、南

鳥島 (Bryan 1903).

*Calidris alpina* ハマシギ: 父島・母島 (長谷川 1977).

*Calidris ferruginea* サルハマシギ: 南鳥島 (日本鳥学会 1922).

*Philomachus pugnax* エリマキシギ: 父島 (樋口他 1980).

*Micropalama himantopus* アシナガシギ: 南鳥 (樋口他 1984). 1羽の観察記録で写真は無い.

*Tringa totanus* アカアシシギ: 南鳥 (樋口他 1980).

*Tringa nebularia* アオアシシギ: 父島 (長谷川 1977), 母島 (中根他 1980), 北硫黄島 (榎山 1930).

*Tringa ochropus* クサシギ: 父島 (榎山 1930).

*Tringa glareola* タカブシギ: 父島 (長谷川 1977, 樋口他 1980), 南鳥 (樋口他 1980, 1984), 母島 (中根他 1980, 樋口他 1980), 北硫黄島 (榎山 1930).

*Tringa incana* メリケンキアシシギ: 父島 (Seebohm 1890), 母島 (榎山 1930, 山階 1932), 姪島, 北硫黄島 (榎山 1930), 硫黄島 (黒田 1912), 南鳥島 (Bryan 1903). 1982年, 南硫黄島でも本種とみられる個体が観察されており (塚本 1982), 南鳥島では定期的に渡来している可能性がある (黒田 1954) という.

*Tringa brevipes* キアシシギ: 小笠原諸島 (Cassin 1862, Seebohm 1890), 父島 (Seebohm 1890, 榎山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 樋口他 1984), 媒島・弟島・向島 (日本野鳥の会 1975), 母島 (榎山 1930, 高野他 1970, 中根他 1980, 樋口他 1984), 北硫黄島 (榎山 1930), 硫黄島 (Seebohm 1891).

*Tringa hypoleucos* イソシギ: 小笠原諸島 (Cassin 1862), 媒島 (山階 1930, 1932), 父島 (Seebohm 1891, 榎山 1930, 蓮尾 1969, 1970 a, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 樋口他 1980), 母島 (黒田 1937, 蓮尾 1969, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984).

*Xenus cinereus* ソリハシシギ: 南鳥 (樋口他 1980).

*Limosa lapponica* (*L.l. menzbieri*) オオソリハシシギ: 父島 (山階 1932).

*Numenius madagascariensis* ホウロクシギ: 母島 (榎山 1930, 中根他 1980).

*Numenius phaeopus* チュウシャクシギ: 父島 (榎山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975), 母島 (榎山 1930, 中根他 1980), 媒島・平島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (榎山 1930), 南鳥島 (Kuroda 1954).

*Scolopax rusticola* ヤマシギ: 北硫黄島 (日本鳥学会 1958).

*Gallinago gallinago* タシギ: 父島 (榎山 1930), 母島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (日本鳥学会 1958). 山階 (1930) は, 舞島において本種と思われる個体を観察している.

*Gallinago stenura* ハリオシギ: 父島 (榎山 1930).

*Gallinago megala* チュウジシギ: 父島 (榎山 1930).

*Gallinago solitaria* アオシギ: 父島 (榎山 1930).

#### RECURVIROSTRIDAE セイタカシギ科

*Himantopus himantopus* セイタカシギ: 父島 (山階 1941), 硫黄島 (黒田 1912).

#### GLAREOLIDAE ツバメチドリ科

*Glareola maldivarum* ツバメチドリ: 北硫黄島 (榎山 1931).

#### STERCORARIIDAE トウゾクカモメ科

*Stercorarius parasiticus* クロトウゾクカモメ: 西之島 (榎山 1930).

#### LARIDAE カモメ科

*Larus ridibundus* ユリカモメ: 父島 (日本鳥学会 1974), 母島 (榎山 1930).

*Larus argentatus* セグロカモメ：父島 (Seeböhm 1891, 榎山 1930), 母島・姪島・北硫黄島 (榎山 1930), 西之島 (日本鳥学会 1974), 南鳥島 (Bryan 1903).

*Larus schistisagus* オオセグロカモメ：北硫黄島 (榎山 1930).

*Larus hyperboreus* シロカモメ：父島 (榎山 1930).

*Larus canus* カモメ：父島 (山階 1932), 北硫黄島 (榎山 1930).

*Larus crassirostris* ウミネコ：父島 (榎山 1930).

*Sterna leucoptera* ハジロクロハラアジサシ：小笠原諸島 (Hartert 1921).

*Sterna bergii* オオアジサシ：北之島 (高野他 1970), 西之島 (B) (榎山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1970 a), 髯島・父島 (日本鳥学会 1974), 父島西方海上 (蓮尾 1970), 南鳥島 (日本鳥学会 1922).

*Sterna hirundo* アジサシ：南鳥島 (日本鳥学会 1932).

*Sterna lunata* ナンヨウマミジロアジサシ：北硫黄島 (榎山 1930), 南鳥島 (黒田 1954).

*Sterna anaethetus* マミジロアジサシ：北硫黄島 (榎山 1930), 南鳥島 (日本鳥学会 1922).

*Sterna fuscata* セグロアジサシ：西之島 (B) (榎山 1930, 蓮尾 1970 a), 西之島沖 (山階 1932), 髯島列島沖 (樋口他 1984), 父島・母島・嫁島・東島・西島 (日本鳥学会 1942, 1958), 南鳥島 (B) (Bryan 1903, 吉原 1901, 黒田 1953, 藤沢 1963), 小笠原海域 (高野他 1970). 黒田 (1953) によれば, 南鳥島の繁殖個体群は *S.f. oahuensis* に属するとされるが, 他はすべて *S.f. nubilosa* とされている (日本鳥学会 1974).

*Sterna albifrons* コアジサシ：小笠原諸島 (日本鳥学会 1932).

*Anous cerulea* ハイイロアジサシ：南鳥島 (日本鳥学会 1922), 北硫黄島 (日本鳥学会 1974).

*Anous stolidus* クロアジサシ：西之島 (B) (榎山 1930, 蓮尾 1970), 母島附近 (高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1984), 妹島附近・姪島附近 (日本野鳥の会 1975), 父島列島附近 (高野他 1970), 南鳥島 (樋口他 1984), 北硫黄島 (榎山 1930), 南硫黄島 (塚本 1982), 南鳥島 (B) (日本鳥学会 1942, 藤沢 1963).

*Anous tenuirostris* ヒメクロアジサシ：硫黄島・南鳥島 (Bryan 1903, 日本鳥学会 1942).

*Anous albus* シロアジサシ：小笠原諸島 (小川 1905), 父島・硫黄列島 (榎山 1930), 南鳥島 (B) (吉原 1901, 黒田 1954, 藤沢 1963). 南鳥島では戦前かなり多かったといわれるが, 1950年代以降には著しく少数となっている。

#### ALCIDAE ウミスズメ科

*Synthliboramphus antiquus* ウミスズメ：硫黄島 (日本鳥学会 1922).

### COLUMBIFORMES ハト目

#### COLUMBIDAE ハト科

*Columba janthina* (*C.j. nitens*) カラスバト：戦前—小笠原諸島 (Kittlitz 1832, 飯島 1894 a), 父島列島 (Seeböhm 1891), 髯島 (榎山 1930, 山階 1930, 1932), 父島・母島・姪島・北硫黄島・硫黄島 (榎山 1930). 戦後—弟島 (日本野鳥の会 1975), 母島 (蓮尾 1969, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 南硫黄島 (塚本 1982). 戦前でも父島, 母島, 硫黄島は個体数が少なく, 媒島, 嫁島には生息していなかった (榎山 1930, 山階 1930). 南硫黄島 (黒田 1912) の報告もあるが, 榎山 (1930) は硫黄島の誤りであるとしている。戦後は硫黄島では未記録で, 父島でも 1 例の記録があるにすぎない (蓮尾 1969).

*Columba versicolor* オガサワラカラスバト：小笠原諸島 (Kittlitz 1832), 媒島 (Seeböhm 1891). 絶滅。本諸島特産種であるが, 1889年の標本が最後の記録となっている。

*Streptopelia orientalis* (*S.o. orientalis*) キジバト：父島 (山階 1932).

*Sphenurus sieboldii* アオバト：父島 (山階 1941).

## CUCULIFORMES ホトトギス目

## CUCULIDAE ホトトギス科

*Cuculus canorus* カッコウ：父島 (靱山 1930), 北硫黄島 (靱山 1932).

*Cuculus saturatus* ツツドリ：父島・北硫黄島 (靱山 1930).

*Cuculus poliocephalus* ホトトギス：父島・母島 (豊島 1914, 靱山 1930), 北硫黄島 (靱山 1932).

## STRIGIFORMES フクロウ目

## STRIGIDAE フクロウ科

*Asio otus* トラフズク：北硫黄島 (靱山 1930).

*Asio flammeus* コミミズク：母島 (中根他 1980).

*Ninox scutulata* アオバズク：父島 (日本鳥学会 1942), 北硫黄島 (靱山 1930).

## CAPRIMULGIFORMES ヨタカ目

## CAPRIMULGIDAE ヨタカ科

*Caprimulgus indicus* ヨタカ：父島・母島・北硫黄島 (靱山 1930).

## CORACIIFORMES ブッポウソウ目

## ALCEDINIDAE カワセミ科

*Alcedo atthis* カワセミ：父島 (山階 1932, 長谷川 1977).

## CORACIIDAE ブッポウソウ科

*Eurystomus orientalis* ブッポウソウ：硫黄島 (靱山 1930).

## PASSERIFORMES スズメ目

## ALAUDIDAE ヒバリ科

*Calandrellia cinerea* ヒメコウテンシ：北硫黄島 (靱山 1932).

## HIRUNDINIDAE ツバメ科

*Hirundo rustica* (*H.r. gutturalis*) ツバメ：父島 (Seebohm 1890, 樋口他 1980), 嫁島西方海上 (山階 1932), 母島 (蓮尾 1969, 高野他 1970, 樋口他 1980, 1984), 北硫黄島・硫黄島 (靱山 1930), 南硫黄島 (塚本 1982).

## MOTACILLIDAE セキレイ科

*Dendronanthus indicus* イワミセキレイ：小笠原諸島 (飯島 1894), 北硫黄島 (靱山 1930).

*Motacilla flava* (*M.f. simillima*) ツメナガセキレイ：母島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (靱山 1930).

*M. cinerea* キセキレイ：西之島・北硫黄島 (靱山 1930).

*Motacilla alba* (*M.a. lugens*) ハクセキレイ：父島 (蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977), 南島 (長谷川 1977), 母島 (日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (靱山 1932).

*Anthus gustavi* セジロタヒバリ：北硫黄島 (靱山 1930).

*Anthus cervinus* ムネアカタヒバリ：北硫黄島 (靱山 1930).

*Anthus spinoletta* タヒバリ：北硫黄島 (靱山 1930).

## PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

*Hypsipetes amaurotis* ヒヨドリ—*H.a. squameiceps*：小笠原諸島 (Kittlitz 1830), 髯鳥 (靱山 1930, 山階 1930, 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970), 媒鳥 (Seebohm 1891), 嫁島 (山階 1932), 弟島・兄島 (靱山 1930, 山階 1932, 日本野鳥の会 1975), 父島 (Seebohm 1891,

靱山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1977 b, 長谷川 1977, 樋口他 1980, 中根他 1980, 樋口他 1984), 母島(Seeböhm 1891, 弘田 1894, 靱山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977 a, 長谷川 1977, 樋口他 1980, 中根他 1980, 樋口他 1984), 向島(靱山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1970, 樋口他 1980), 平島(山階 1932, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 姪島(靱山 1930). *H.a. magnirostris*: 硫黄列島 (Hartart 1905) 北硫黄島(靱山 1930), 硫黄島(Seeböhm 1891, 内田 1911, 靱山 1930, 蓮尾 1970 a), 南硫黄島(塚本 1982). 嫁島については, 山階(1930)は全くいないと報じているが, 山階(1932)には1930年同島産の1標本が記載されている。平島および妹島については, 靱山(1930)は「産せざるもの如く」と記している。なお媒島ではすでに1920年代には記録がない(靱山 1930, 山階 1932)。内田(1911)の記録は, 原著では南硫黄島として記載されているが, 靱山(1930)は硫黄島の誤りと指摘している。

#### LANIIDAE モズ科

*Lanius cristatus* アカモズ: 父島(蓮尾 1969). 亜種名は不明である。北硫黄島からも標本が得られていたといわれる(蓮尾 1970 b, 日本野鳥の会 1974).

#### BOMBYCILLIDAE レンジャク科

*Bombycilla garrulus* キレンジャク: 父島・母島(豊島 1914), 硫黄島(日本鳥学会 1942).

*Bombycilla japonica* ヒレンジャク: 北硫黄島(靱山 1930).

#### MUSCICAPIDAE ヒタキ科

*Erithacus calliope* ノゴマ: 北硫黄島(靱山 1930).

*Tarsiger cyanurus* ルリヒタキ: 父島(靱山 1930, 蓮尾 1969, 高野他 1970), 母島(蓮尾 1969), 北硫黄島(靱山 1932). 蓮尾(1969)は髯島において本種と思われる声を記録している。

*Phoenicurus auroreus* ジョウヒタキ: 髯島(山階 1932), 媒島(日本野鳥の会 1975), 父島(高野他 1970), 母島(日本野鳥の会 1975, 中根他 1980), 北硫黄島(靱山 1930).

*Monticola solitarius* イソヒヨドリ: 小笠原諸島並びに硫黄列島中の各島(靱山 1930) 髯島(B)(Seeböhm 1891, 山階 1930, 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970), 媒島・弟島・兄島(日本野鳥の会 1975), 父島(B)・母島(B)(Seeböhm 1891, 山階 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977 a, 長谷川 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 南島(蓮尾 1970, 樋口他 1980, 1984), 向島(日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 平島(樋口他 1980), 西之島(靱山 1930), 硫黄島(B)(黒田 1912, 蓮尾 1970 a, 高野他 1970), 南硫黄島(塚本 1982).

*Turdus dauma* トラツグミ: 父島(山階 1932, 蓮尾 1970 a, 高野他 1970, 千羽 1977 b, 日本野鳥の会 1975, 中根他 1980, 樋口他 1984), 母島(蓮尾 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984). 1930年代までは1例しか記録がなかったが, 現在では少なくとも父島と母島には定着している。

*Turdus terrestris* オガサワラガビチョウ: 小笠原諸島(Kittlitz 1830). 絶滅。1828年採集の4標本が最後である。採集地は不明であるが, おそらく父島であろうと推測されている(日本鳥学会 1974).

*Turdus chrysolaus* アカハラ: 北硫黄島(日本鳥学会 1974).

*Turdus pallidus* シロハラ: 北硫黄島(清樸 1952).

*Turdus naumanni* (*T.n. eunomus*) ツグミ: 髯島(靱山 1930, 山階 1941), 父島・母島(豊島 1914, 日本野鳥の会 1975), 姪島(靱山 1930), 北硫黄島(靱山 1930, 山階 1941).

*Cettia squameiceps* ヤブサメ: 父島(蓮尾 1969, 高野他 1970), 母島(蓮尾 1969).

*Cettia diphone* (*C.d. diphon*) ウグイス：小笠原諸島 (Kittlitz 1830, 豊島 1914), 髯島 (Seebohm 1891, 靱山 1930, 山階 1930, 1932), 嫁島・媒島 (山階 1930), 兄島 (靱山 1930, 蓮尾 1970, 日本野鳥の会 1975), 弟島 (蓮尾 1970), 父島・母島 (Seebohm 1891, 靱山 1930, 山階 1932, 蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977 a, 1977 b, 長谷川 1977, 森岡 1977, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 向島 (靱山 1930, 蓮尾 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 姪島・妹島 (靱山 1930), 平島 (靱山 1930, 高野他 1970), 北硫黄島 (靱山 1930), 硫黄島 (Seebohm 1891, 内田 1911, 靱山 1930), 南硫黄島 (塚本 1982). 高野他 (1970) の調査では, 髯島と硫黄島では確認されていない。

*Acrocephalus arundinaceus* オオヨシキリ：父島 (山階 1932).

*Ficedula narcissina* (*F.n. narcissina*) キビタキ：父島・母島・北硫黄島 (靱山 1930).

*Cyanoptila cyanomelana* オオルリ：父島 (靱山 1932, 山階 1932), 北硫黄島 (靱山 1932).

#### ZOSTEROPIDAE メジロ科

*Zosterops japonica* メジロ：戦前—小笠原諸島 (内田 1911), 父島 (豊島 1914, 靱山 1930), 母島 (靱山 1930, 山階 1932), 硫黄列島 (Hartert 1905) 硫黄島 (内田 1911, 靱山 1930) 北硫黄島 (靱山 1930). 戦後—髯島 (B) (戦後放鳥) (蓮尾 1969, 高野他 1970), 兄島 (蓮尾 1969, 1970 a, 日本野鳥の会 1975), 弟島 (蓮尾 1970), 媒島 (日本野鳥の会 1975), 父島 (B)・母島 (B) (蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 長谷川 1977, 千羽 1977 a, 樋口他 1980, 1984, 中根他 1980), 向島 (B) (蓮尾 1970, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 平島 (高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 硫黄島 (Seebohm 1891, Hartert 1905, 高野他 1970, 蓮尾 1970 a), 南硫黄島 (塚本 1982). 硫黄列島のものは *Z.j. alani* とされるが, 髯島・父島・母島の各列島のものは *Z.j. alani* と *Z.j. stejnegeri* との交雑個体群とされている。かつて硫黄列島以外には生息していなかったが, 1900年~1910年頃より人為的放鳥などで増加し (靱山 1930), 現在では著しく個体数が多く, 最も普通にみられる種となっている。

#### MELIPHAGIDAE ミツスイ科

*Apalopteron familiare* メグロ：戦前—小笠原諸島 (Kittlitz 1830), 髯島 (B) (Seebohm 1890, 靱山 1930, 山階 1930, 1932), 媒島 (Seebohm 1891), 父島 (Morioka and Sakane 1978), 母島 (Seebohm 1890, 靱山 1930, 山階 1930), 向島 (B) (靱山 1930, 山階 1930), 妹島 (靱山 1930), 姪島 (山階 1930). 戦後—母島 (蓮尾 1969, 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 千羽 1977, 長谷川 1977, 松本 1978, Morioka and Sakane 1978, 中根・松本 1979, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 向島 (蓮尾 1970 a, 日本野鳥の会 1975, 樋口他 1980), 平島・姉島 (Morioka and Sakane 1978). 髯島列島と父島産は *A.f. familiare*, 母島列島産は *A.f. hahasima* に分類されている。媒島ではすでに1930年にまったくみられず, 1930年にはまだ多数生息していたという髯島でも戦後はまったく記録がなく, 髯島列島においては絶滅した可能性が強い。父島列島では1910年の1例があるにすぎない。母島列島においては, 母島と向島では現在も生息しているが, すでに1925年には妹島ではごく少数が生息するのみとなり, 姪島, 平島では記録されていない (靱山 1930). 戦後は母島と向島ではひき続き生息しているが, その他は姉島と平島の各1羽の観察記録のみである。

#### EMBERIZIDAE ホオジロ科

*Emberiza rustica* カシラダカ：母島 (日本野鳥の会 1975).

*Emberiza aureola* シマアオジ：北硫黄島 (靱山 1932).

#### FRINGILLIDAE アトリ科

*Fringilla montifringilla* アトリ：小笠原諸島 (Seebohm 1890), 父島・母島・北硫黄島 (靱

山 1930), 平島 (山階 1932).

*Carduelis sinica* (*C.s. kittlitzii*) カワラヒワ: 戦前—小笠原諸島 (Kittlitz 1830), 髯島 (靱山 1930, 山階 1932), 媒島 (Seeböhm 1890), 父島 (弘田 1894, 靱山 1930), 母島 (Seeböhm 1890, 靱山 1930), 向島 (靱山 1930), 硫黄島 (Seeböhm 1891, 内田 1911, 黒田 1912), 北硫黄島 (靱山 1930). 戦後—兄島 (日本野鳥の会 1975), 母島 (蓮尾 1970 a, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975, 中根他 1980, 樋口他 1980, 1984), 向島 (蓮尾 1970 a, 日本野鳥の会 1975), 平島 (樋口他 1980), 南硫黄島 (塚本 1982). 復帰後, 父島では記録がなく, 母島でも極めて少数しか記録されていない。

*Carduelis spinus* マヒワ: 髯島 (靱山 1930, 山階 1930), 父島 (靱山 1930, 蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975), 平島 (山階 1932), 北硫黄島 (靱山 1930).

*Acanthis flammea* ベニヒワ: 小笠原諸島 (Vaurie 1959).

*Loxia curvirostra* イスカ: 父島 (豊島 1914, 靱山 1930, 山階 1932, 高野他 1970), 母島 (豊島 1914), 硫黄島 (黒田 1912).

*Chaunoproctus ferreorostris* オガサワラマシコ: 小笠原諸島 (Vigors 1828, Kittlitz 1830). 絶滅. 1827年, 1828年採集の少数の標本を残すのみである。採集地は不明ながら父島であろうと推測されている。

*Eophona migratoria* コイカル: 父島 (山階 1930, 蓮尾 1969).

*Eophona personata* イカル: 父島 (靱山 1930, 蓮尾 1969).

*Coccothraustes coccothraustes* シメ: 父島・母島 (豊島 1914), 硫黄島 (靱山 1930).

#### STURNUS ムクドリ科

*Sturnus sturnius* シベリアムクドリ: 小笠原諸島 (日本鳥学会 1974). 採集年月日不詳の1標本である (高野 1980).

*Sturnus philippensis* コムクドリ: 父島 (山階 1932), 母島 (中根他 1980).

*Sturnus sinensis* カラムクドリ: 北硫黄島 (日本鳥学会 1958). 1935年~1937年のいずれも10月の記録である (日本鳥学会 1974).

*Sturnus cineraceus* ムクドリ: 髯島 (靱山 1930, 山階 1930, 1932), 父島 (山階 1930, 1932, 蓮尾 1969, 高野他 1970, 日本野鳥の会 1975), 母島 (靱山 1930, 山階 1930, 1932, 日本野鳥の会 1975), 北硫黄島 (靱山 1930).

#### CORVIDAE カラス科

*Corvus corone* ハシボソガラス: 父島 (山階 1934), 北硫黄島 (日本鳥学会 1958). 本諸島には定着しておらず, 1933年~1937年の冬期における父島2例, 北硫黄島1例の記録があるのみである (日本鳥学会 1974).

*Corvus macrorhynchos* (*C.m. japonensis*) ハシブトガラス: 父島列島・媒島 (Seeböhm 1891). かつては本諸島にも生息していたが, 1889年の採集標本を最後に, その後はまったく記録がない。日本鳥学会 (1974) には「Ogasawara Is. (Muko. Chichi)」の記載がみられるが, Muko は髯島ではなく, 上記の媒島を指すと解される。

以下に示す種は, 同定が不十分であって種名が確定されていないものや, さらに検討を要するものであり, この目録から除いた記録である。

*Puffinus bulleri* ミナミオナガミズナギドリ: 父島西方海上 (蓮尾 1970 a), 父島沖 (高野他 1970). 2例の観察記録があるが, 日本鳥学会 (1974) は資料不十分として収録しておらず, Nakamura and Hasegawa (1979) もあくまで参考記録としている。

*Egretta sp.*: 南硫黄島 (塚本 1982), 南鳥島 (黒田 1954). 南硫黄島の1例はクロサギの白

色形と推定されている。南鳥島のもは白色といわれるのみである。

*Stercorarius skua* オオトウゾクカモメ(?) : 南鳥島 (黒田 1954)。1954年5月、1羽の観察記録ながら種名が確定されていない。

*Phylloscopus inornatus* キマユムシクイ : 父島 (蓮尾 1969, 高野他 1969), 母島 (日本野鳥の会 1975)。いずれも観察記録であり、資料が充分でない。

#### 引用文献

- Bryan, W.A. 1903. A monograph of Marcus Island. Bernice P. Bishop Mus., Occas. Papers, 2(1): 77~126.
- ※Cassin, J. 1862. Catalogue of Birds collected by the United States North Pacific Surveying and Exploring Expedition, in command of Capt. John Rodgers, United States Navy; with notes and descriptions of new species. Proc. Acad. Nat. Sc. Philad, 1862 : 312-327.
- 千羽晋示 1977a. 母島の鳥類について。小笠原・母島道路計画にともなう自然環境調査報告書, 119~138. 国立公園協会。
- 千羽晋示 1977b. 父島の冬期の鳥類。小笠原・父島道路計画にともなう自然環境調査報告書, 15~18. 国立公園協会。
- 藤沢 格 1963 南鳥島のアシサシ。野鳥, 28 : 167~173, 211~214.
- Hartert, E. 1905 Two new birds from the Volcano Islands, south of the Bonin Islands. Bull. Brit. Orn. Club, XV (113) : 45-46. (講演記録)
- ※Hartert, E. 1920 Die Vögel der paläarktischen Fauna, II. Heft 5 & 6 : 1427~1428.
- ※Hartert, E. 1921 Die Vögel der paläarktischen Fauna, II. Heft 7 & 8 : 1685~1686.
- 長谷川 博 1977 小笠原父島, 母島で初冬季に観察された陸上鳥類について, 山階鳥研報, 9 : 280~283.
- Hasegawa Hiroshi 1978 Sea-bird observations of Torishima and the Ogasawara Islands in November 1976. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornith., 10 : 178~184.
- 蓮尾嘉彪 1969 小笠原諸島の動物, 鳥類・哺乳類を中心として。小笠原諸島自然景観調査報告書 (東京都編), 111~143.
- 蓮尾嘉彪 1970 a 小笠原諸島の動物。続・小笠原諸島自然景観調査報告書, 193~216.
- 蓮尾嘉彪 1970 b 陸上動物。小笠原の自然 (津山・津海編), 143~178. 廣川書店。
- 樋口行雄・花輪伸一・塚本洋三 1980 母島・父島列島における鳥類の調査—メグロの生息状況を中心に—昭和54年度環境庁委託調査, 特定鳥類等調査, 7~44. 日本野鳥の会。
- 樋口行雄・花輪伸一・塚本洋三 1983 小笠原航路におけるアカアシカツオドリの観察. Strix, 2 : 106~108. 日本野鳥の会。
- 樋口行雄・花輪伸一・森下英美子 1984 母島, 父島及び南島における鳥類の生息状況 (1983年9月)。特殊鳥類調査, 1~20. 日本野鳥の会。
- 弘田貞守 1894 小笠原島動物界。動物学雑誌, 6 (69) : 233~247.
- 飯島 魁 1894a. 小笠原産からすばと1種ニ就キテ。動物学雑誌, 6 (63) : 24~26.
- 飯島 魁 1894b. イハミセキレイに就て。動物学雑誌, 6 (63) : 26~27.
- Ingram, C. 1911. A new subspecies of Rail belonging to the genus *Porzana*. Bull. Brit. Orn. Club, 29 : 21~22. (講演記録)
- Kittlitz, B.F.H. 1830. Ueber die Vögel der Inselgruppe von Bonin-sima. Mem. Acad.

- Imp. St. Petersburg, 1 : 231~248.
- ※Kittlitz, B.F.H 1832 Kupfertafeln zur Naturgeschichte der Vögel. 1 : 5.
- ※Kittlitz, B.F.H 1833 Kupfertafeln zur Naturgeschichte der Vögel. 3 : 27.
- 清模幸保 1952 日本鳥類大図鑑, II. 講談社.
- 倉田洋二 1978 小笠原諸島におけるコアホウドリ繁殖の記録 (速報). 山階鳥研報, 10 : 185~189.
- 黒田長久 1937 小笠原諸島への旅行日誌より. 鳥, 9 : 515~518
- 黒田長久 1953 南鳥島のセグロアジサシの亜種名に就て. 山階鳥研報, 2 : 17~21.
- Kuroda Nagahisa 1954 Report on a Trip to Marcus Island with Notes on the Birds. Pacific Science, 8 : 84~93
- 黒田長禮 1912 硫黄島にて新に獲たる数種の鳥類. 動物学雑誌, 24 (290) : 665~669.
- 黒田長禮 1913 オオチドリとハイイロアジサシ. 動物学雑誌, 25 (298) : 419~421.
- Mathews, G.M. & Iredale, T. 1915 On some Petrels from the North-East Pacific Ocean. Ibis, 52 : 572~609.
- 松本忠夫 1978 小笠原母島における陸産脊椎動物の生態. 小笠原研究年報, 2 : 29~39, 東京都立大学小笠原研究委員会.
- 榎山徳太郎 1927 日本産新鳥類 (1). 東亜鳥学彙報 (Annot. Orn. Orient.), 1 (1) : 1~80.
- 榎山徳太郎 1930 小笠原諸島並びに硫黄列島産の鳥類に就て, 日本生物地理学会々報, 1 (3) : 89~186.
- 榎山徳太郎 1931 本邦にては珍らしきツバメチドリ, 附 飼養法. 鳥, 7 (31) : 61~71.
- 榎山徳太郎 1932 日本産鳥類の新産地報告一東. 鳥, 7 (33/34) : 301~328.
- 森岡弘之 1977 伊豆・小笠原諸島のウグイスの分類学的考察. 国立科学博物館専報, 10 : 171~177.
- Morioka Hiroyuki & Sakane Takaharu 1978 Observations on the Ecology and Behaviour of *Apalopteran familiare* (Aves. Meliphagidae). Mem. Natl. Sci. Mus., 11 : 169~188+2, Tokyo.
- 中根正敏・松本忠夫 1979 小笠原母島の鳥類の現状. 小笠原研究年報, 3 : 45~57. 東京都立大学小笠原研究委員会.
- 中根正敏・松本忠夫・宮下和喜 1980 小笠原父島・母島における鳥類の生息状況. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 (1) (東京都立大学自然環境現況調査班編), 43~63. 東京都公害局.
- Nakamura kazue & Hasegawa Minekio 1979 A brief note on distribution of Buller's Shearwater, *Puffinus bulleri*, in Japan and adjacent sea. Yamashina Inst.
- Morioka Hiroyuki & Sakane Takaharu 1978 Observations on the Ecology and Behaviour of *Apalopteran familiare* (Aves. Mus., 11 : 169~188+2, Tokyo.
- 中根正敏・松本忠夫 1979 小笠原母島の鳥類の現状. 小笠原研究年報, 3 : 45~57. 東京都立大学小笠原研究委員会.
- 中根正敏・松本忠夫・宮下和喜 1980 小笠原父島・母島における鳥類の生息状況. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 (1) (東京都立大学自然環境現況調査班編), 43~63. 東京都公害局.
- Nakamura kazue & Hasegawa Minekio 1979 A brief note on distribution of Buller's Shearwater, *Puffinus bulleri*, in Japan and adjacent sea. Yamashina Inst. Ornitho., 11 : 123~127.

Ornitho., 11 : 123~127.

- 波江元吉 1905 南鳥島産動物. 動物学雑誌, 17(201) : 218~226. (Bryan 1903の抄録)
- 日本鳥学会 1922 A Hand-List of the Japanese Birds.
- 日本鳥学会 1932 A Hand-List of the Japanese Birds. Second Rev. Ed.
- 日本鳥学会 1942 A Hand-List of the Japanese Birds. Third Rev. Ed.
- 日本鳥学会 1958 A Hand-List of the Japanese Birds. Fourth and Rev. Ed.
- 日本鳥学会 1974 Check-list of Japanese Birds. Fifth and Rev. Ed. Gakken.
- 日本野鳥の会 1975 小笠原諸島, 環境庁委託特定鳥類等調査, 5~136. 環境庁.
- 小川三紀 1905 南洋にて採集されたる日本の鳥. 動物学雑誌, 17 (198) : 73~80.
- 五月女雄二郎 1968 小笠原諸島海域におけるカツオドリの観察. 山階鳥研報, 5 : 414~419.
- Seebohm, H. 1890 On the Birds of the Bonin Islands. Ibis., 3(2) : 95~108.
- Seebohm, H. 1891 Birds of the Volcano Islands. Ibis., 4 : 189~192.
- 高野伸二 1980 野鳥識別ハンドブック. p.305. 日本野鳥の会.
- 高野伸二・内田康夫・柳澤紀夫・杉山互男 1970 小笠原諸島の鳥類. 小笠原の自然—小笠原諸島の学術・天然記念物調査報告書, 61~87. 文部省・文化庁
- ※豊島怨清 1914 小笠原島ノ概況と森林. 103~110.
- 塚本洋三 1982 南硫黄島の鳥類. 南硫黄島原生自然環境保全地域調査報告書, 249~285. 環境庁自然保護局.
- 内田清之助 1911 硫黄島産鳥類数種に就て. 動物学雑誌, 23 (276) : 535~538.
- Vaurie, C. 1959 The birds of the Palearctic fauna, Passeriformes. London, Witherby.
- ※Vigors, N.A. 1828 The Zoology of Captain Beechey's Voyage to the Pacific and Behring's Straits, performed in H.M.S. Blossom under the command of Captain Beechey in the years 1825-1828. Zool. Journ., 4 : 354.
- 山階芳麿 1930 鯉島列島の鳥類. 鳥, 6 (30) : 323~340.
- 山階芳麿 1932 小笠原群島産鳥類の標本. 鳥, 7 (33/34) : 253~260.
- 山階芳麿 1934 鴉2題. 鳥, 8 (38) : 218~219.
- 山階芳麿 1941 本邦内各地より新記録の鳥類22種に就て. 鳥, 11 (51/52) : 46~52.
- 吉原重康 1901 小笠原の動物. 動物学雑誌, 13(156) : 309~316
- (※は直接みることはできなかった)

List of Birds in Ogasawara Islands, including Iwo Islands and Minamitorishima.  
Yukio Higuchi (Tokiwa 4-3-23, Yokkaichi-shi, Mie, Japan 510)